

事業名	産地づくり推進事業
-----	-----------

総事業費	209,496 千円
------	------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	種子島安納いもを核とした地域ブランド製品の確立 GAP申請者の支援を行い、安心安全な取組を行ってもらう。	
事業の実績 と成果	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安納いもブランド推進本部運営（総会、幹事会、担当者会）、種子島安納いもブランド化研修会の開催 ・種子島安納いも「ブランド戦略」の作成。 ・食の安心・安全に関する研修会への参加、K-GAP取得支援、東京及び福岡での安納いも及び種子島茶の販促活動。 ・各作物の生産安定及び規模拡大を推進する補助事業の実施。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の安心・安全に対する取組（K-GAP）については、現地審査・書類審査とも生産者及び審査機関と連携し、予定通り4品目13名の認証を受けた。 ・種子島安納いもブランド戦略の作成により、ブランド推進本部の新たな方向性を生産者及び関係機関が共有できたことで、さらなるブランド強化のための体制が築けた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・「種子島安納いも」の更なるブランド力の向上に向けての取組強化（ブランド戦略の随時見直し、パンフレットやPRビデオの検討・作成など） ・「種子島安納いも」のロゴマーク及び地理的表示（GI）を効果的に活用し、「種子島安納いも」の更なるブランド力の向上に努める必要がある。 ・各作物の生産安定及び規模拡大を推進するために補助事業を実施したが、生産者の減少及び資材価格高騰等により実施者が少なかった。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>本事業については、種子島の安納いも等の農産物のブランド化を目指し、有利販売により農家の所得向上を図るため実施するものである。令和6年度からは、新たな品目として産地化を図るため、新たに施設園芸資材支援事業として、これまで要望の高かったパッションフルーツのハウス資材への予算を計上したが、実績には至らなかった。また、工芸作物である葉たばこについては、生産省力化支援事業として、生分解性マルチへの助成を行った。施設園芸資材支援事業については、次年度より市の重点品目（レザーリーフファン、フェニックスロベレニー、ヒサカキ、スプレー菊、パッションフルーツ）に拡大し、支援を行うこととしている。</p>

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	<ol style="list-style-type: none"> ①「種子島安納いも」の更なるブランド力向上を図るため、ブランド戦略に沿った生産及びPRを行っていく。 ②日本一早い新茶である「種子島茶」の生産安定と知名度アップを図る。 ③高収益品目である果樹・花き・葉たばこ等の生産安定及び規模拡大を図る。
------------	--

事業名	環境保全型農業推進事業
-----	-------------

総事業費	839 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	環境保全型農業の面積の拡大、取組者の増加	
事業の実績 と成果	取組内容	地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動として、有機農業の取組を行った。
	成果	有機農業の取組を茶、さとうきび、青果用さつまいも等で行った。取組開始より有機農業取組面積も拡大し、取組者5名補助金交付面積は699 aの実績であった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事業をしていく中で、担当者レベルで有機農業についての知識が少なく、事業内容に適しているかの判断が難しい。国がみどりの食料システム戦略を推進していくなかで、有機農業に関心のある農業者が増えつつあるが、県など関係機関に専門の指導者がいないため、専門的指導ができず、また、周辺農地への配慮や安定生産の面からも慣行栽培から有機栽培への推進も難しい。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農林水産省は令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」の中で、有機農業を2050年までに耕地面積の25%、100万haに拡大することとしている。令和6年度においても、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業に関心を持つ農家が少しずつ増えており、面積も拡大しつつあり、概ね目標値に近い実績となっている。一方、計画の目標達成に向け環境負荷低減事業活動の促進をしているが、指導者が少ないため、外部から専門家を招聘し研修会を実施するなど、引き続き技術面でのサポート体制が重要である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	有機農業や環境負荷低減に取り組んでいる農業者へ対して環境保全型農業直接支払交付金について周知する。みどりの食料システム戦略等の関連事業も含め、研修会等に積極的に参加し、環境保全型農業の推進に取り組む。
------------	--

事業名	農水産物輸送コスト支援事業
-----	---------------

総事業費	30,107	千円
------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	島外への農水産物の輸送量の増加を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	協議会運営、補助金の申請書類作成の支援、関係機関（国・県等）への実績報告を行った。
	成果	輸送費の支援を行い、農家の農業経費の低減及び積極的な販路拡大を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	特になし。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	輸送費の支援を行うことで、農家の輸送経費の低減及び販路拡大が図られることから有効である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	引き続き輸送コストの負担軽減を図り、生産者の生産意欲の向上及び農産物の販路拡大に努める。 また、事業量が年々減少傾向にあることから、効果的な事業周知を行いたい。
------------	---

事業名	さつまいも振興対策事業
-----	-------------

総事業費	31,614 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	サツマイモ基腐病等の病害虫を抑制し、生産量の確保を図る。	
事業の実績と成果	取組内容	防除支援員による圃場巡回及び講習会等での技術指導を強化した。当年産に対する殺菌剤購入費の一部助成及び被害を受けた農家へ助成金支給並びに貸付金利子を助成するなど経営対策を行った。また、次期作への対策として、残渣処分場を開設し適正処分を推進した。
	成果	防除支援員の巡回指導により、農家の防除意識及び防除技術の向上が図られたことから、昨年度と比較し反収が向上し、サツマイモ基腐病の発生率は減少した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	総合的な防除を農家が継続して実践するには、相当の労力と経費が必要であることから、継続的な支援が必要である。特に、非常に効果的な対策である土壌消毒について、農薬単価が高価なことに加え、被害率の抑制に伴い国の補助事業対象とならない生産者が増えてきたことから、土壌消毒を控える生産者が増加している。国の事業を補完する補助事業の創設が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度はサツマイモ基腐病対策として、前年度に引き続き排水対策や土壌改良を行う農地耕作条件改善事業、収穫後の早期耕耘を推進するための生分解性マルチ助成等を行った。また、併せて防除支援員1名による巡回指導等を行うとともに、国等の事業を活用した農薬等資材の購入助成、残渣処理場の拡充等に取り組んだ。さらに県やJA等と連携し、生産農家に対する講習会やチラシ・防災無線を通じた広報活動を行い、防除の徹底に努めた。この結果、本格的な収穫が始まる9月下旬までに、基腐病の発生割合が、1割以下と被害低減が図られ、生産量を確保することができた。一方、収穫時期の後半になると依然として基腐病に拡大が見られることから、異常株の抜取りや農薬等による早期防除等、育苗から本圃での生育管理、収穫後の残渣処理等すべての工程で、基本的な防除を徹底する必要がある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	新年度においても基本的な防除対策の励行徹底及び各種補助事業の実施により生産量の確保及び農家の所得向上を目指す。
------------	---

事業名	安納いもバイオ苗増殖運営事業
-----	----------------

総事業費	1,472 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	安納いもの生産量拡大・栽培面積の維持・拡大。	
事業の実績 と成果	取組内容	安納いものサツマイモ基腐病対策としてバイオ苗を利用してもらうため、増殖育苗施設を管理し、苗の増殖を行い生産農家へバイオ苗（ウイルスフリー苗）を提供する。 ①委託業者の選定②委託契約③広報④苗申込集計⑤苗配布⑥実績報告⑦完了検査⑧委託料請求
	成果	安納いもブランド推進本部、種子島高校生物生産科、農業振興公社と連携し、安納いもブランド推進本部会員へバイオ苗（ウイルスフリー苗）の安定供給ができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	育苗期間中のハウス管理省力化が課題であり、R6度地域振興事業を活用した労働力補完システム（自動巻き上げ装置等）の有効活用を行う。低温期が続き、委託契約期間内での苗供給に遅延が生じた。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農業振興公社によるバイオ苗の増殖・供給については、本市の安定生産及びブランド化の為に重要な役割を果たしている。特に、サツマイモ基腐病が拡大する中、健全苗の育苗及び供給が求められている。令和6年度は、冬場の低温により苗の生育が遅れる等の影響が出たが、予定どおり苗の共有を行うことができた。また、ハウスに自動開閉装置や温度モニタリング装置を設置し労力の省力化など管理作業の充実を図った。引き続き、公社と連携を図りながら健全苗として安定的に提供できる体制を継続していきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	安納いものサツマイモ基腐病対策としてバイオ苗を利用してもらうため、増殖育苗施設を管理し、苗の増殖を行い生産農家へバイオ苗（ウイルスフリー苗）を提供する。
------------	--

事業名	安納いも育苗資材支援事業
-----	--------------

総事業費	1,200 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	安納いもの生産量拡大・栽培面積の維持・拡大	
事業の実績 と成果	取組内容	本市の特産品である安納いもについて、農家のウイルスフリー苗増殖に係る施設整備経費の一部を助成し、優良種苗の生産・安定出荷・農家所得向上を目指す。
	成果	設置数 4（育苗ハウス3棟、本ほ育苗資材一式×1） 育苗ハウス966㎡（300㎡×1、210㎡×1、456㎡×1）、本ほ育苗資材一式2,400㎡ 設置した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	資材価格の高騰から設置ハードルが上がっている。令和7年度は補助割合を増やし、設定上限額も増とした。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本市の特産品である安納いもについて、農家のウイルスフリー苗増殖に係る施設整備経費の一部を助成し、優良種苗の生産・安定出荷・農家所得向上に寄与している。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	引き続き本市の特産品である安納いもについて、農家のウイルスフリー苗増殖に係る施設整備経費の一部を助成し、優良種苗の生産・安定出荷・農家所得向上を目指す。
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	設置育苗ハウス 1例 6m×50m 300㎡

事業名	みどりの食料システム戦略推進総合対策事業
-----	----------------------

総事業費	360 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	有機農業の取組面積の拡大、栽培技術の向上	
事業の実績 と成果	取組内容	有機農業の取組面積の拡大、栽培技術の向上のため、オンライン学習会および専門技術員を招いて現地研修会を行い、指導を受けた。
	成果	栽培技術の向上、協議会員同士での連携の強化。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	有機農業や環境に優しい農業についての担当者レベルの知識が少なく、有機農業の転換の推進が難しい。国や県の研修会も増えているため、積極的に参加していく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農林水産省は令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」の中で、有機農業を2050年までに耕地面積の25%、100万haに拡大することとしている。本市においても、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業に関心を持つ農家が少しずつ増えており、お茶農家を中心に面積も拡大しつつある。 一方、計画の目標達成に向けて、環境負荷低減事業活動の促進をしていくこととなるが、県や市など関係機関に専門の指導者が少ないため、随時行われる研修会の機会を積極的に利用することで、専門的な知識等を醸成していきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	国がみどりの食料システム戦略を推進し、世界的にも有機農産物の市場が拡大するなかで、事業を活用し研修会や先進地視察等を実施し、有機農業の取組面積の拡大、栽培技術の向上を目指す。
------------	---

事業名	各種伝染病発生予防事業
-----	-------------

総事業費	144 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	計画的かつ迅速な巡回ができる。	
事業の実績 と成果	取組内容	予防注射業務に係る車両の維持管理を行った。
	成果	予防注射等の自衛防疫業務を円滑に行うことができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	既存車両が老朽化し、更新の必要性が生じてきた。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	予防注射業務に係る車両の維持管理を行いながら、家畜の疾病予防に努めている。 一方、車両購入後10年以上が経過し老朽化が著しいことから、令和7年度に新たな車両を導入予定である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	車両を更新（購入）する。
------------	--------------

事業名	種子島あかおぎ牛導入支援事業
-----	----------------

総事業費	117 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	優良繁殖雌牛の血統作りによる優良血統子牛の生産による家畜の改良と畜産生産額向上を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	旧制度での貸付に係る返納審査や、新制度での牛の貸付を行った。
	成果	家畜セリ市にて、4頭の優良雌牛の貸付を行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	現行の規程では市内産の雌牛しか導入できないため、近交係数の上昇が懸念される。 子牛価格の低迷に伴い、生産農家が導入そのものに消極的である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度も市場性の高い雌子牛を導入し、希望する畜産農家へ貸付を行い、優良血統による繁殖基盤の確立に向け和牛農家の収益の安定を図った。また、子牛の出荷後の状況を確認するため、前年度に引き続き肥育農家への産子調査を行った。飼養状況や購買者である肥育農家の考え方、種子島の子牛に求めること等を直接伺うことができ、今後の事業のあり方について大変参考になったところである。 一方、これまで雌子牛の導入については、種子島家畜市場における西之表市産に限定していたが、近郊係数が高くなる傾向にあることから、今後は、熊毛郡内まで対象を広げ、併せて県内の他市場も含め検討していく必要がある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	近交係数の上昇を抑えるために、市外（島外含む）から優良雌牛が導入できるよう規程を改正する。
------------	---

事業名	畜産振興対策事業
-----	----------

総事業費	293 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	畜産振興へ向けた業務を行う。	
事業の実績 と成果	取組内容	畜産団体への負担金の支払及び畜産関係会議への出席を行う。
	成果	畜産振興へ向けた畜産関係会議への出席を行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	今後も関係団体への負担金を継続して、畜産振興へ向けた取組が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度も前年度同様に県の外郭団体である県畜産協会及び県内用牛振興協議会へ負担金として支出した。両組織とも畜産行政の補完機関として、畜産の振興と畜産の安定供給に寄与すること等を目的としており、重要な役割を果たしている。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	県内の関係機関や団体等に対する負担金としての支出が必要であるため、令和7年度についても引き続き、支出が必要となる。
------------	---

事業名	畜産経営総合支援事業
-----	------------

総事業費	200 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	新規就農者の初期投資の負担を抑え、経営の安定を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	畜産農家1名（肉用牛繁殖）に対して、繁殖雌牛の導入支援を行った。
	成果	本事業の活用により、初期投資の軽減を図ることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	近年の情勢悪化により、新規参入者がなかなかいないのが現状である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業については、畜産新規就農者が安定した経営が行えるよう、家畜導入費及び機械導入等に係る経費の一部を助成するものである。 令和6年度については、畜産後継者向けの素畜導入助成を行った。近年、相場の低迷や高齢により廃業する農家が増加している。このため、畜産経営を開始する際の経費を軽減する等、今後も如何にして担い手の確保に繋げていくかが課題である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	畜産新規就農者が安定した経営が行えるよう、家畜導入費及び機械導入等に係る経費の一部を助成する。
------------	---

事業名	西之表市畜産経営緊急支援事業
-----	----------------

総事業費	70,865 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	支援金を支給することで、経費負担を少しでも軽減させ、畜産経営が維持できるようにする。	
事業の実績 と成果	取組内容	各畜種の出荷頭数・量に応じた支援を行った。肉用牛（子牛・肉牛）・乳用初妊牛：1頭25,000円，乳用牛（生乳）：1キロ4円，採卵鶏（卵）：1個1円
	成果	本事業により畜産農家の経営支援につながった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	特になし。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	長引く相場の低迷や飼料価格等の高騰により、畜産経営に大きく影響が出ていることから、畜種ごとの出荷数量に対し、支援金を支給したものである。緊急的な支援は令和4年度より毎年実施してきたが、今後は国の交付金等を活用し、ワクチン接種等による損耗防止や飼料価格高騰対策を行い、経営安定に向けた対策を検討していきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	2025年度事業はなし。 ただし2024年度繰越分の事務処理は有り。
------------	---------------------------------------

事業名	家畜損耗防止対策事業（R5基金事業）
-----	--------------------

総事業費	8,326 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	産地づくり（流通加工販売体制の整備）

② 実施 (Do)

事業の意図	和牛子牛の死亡頭数の減少 牛ポツリヌス症・炭疽病(発症疑いも含む)の発生防止	
事業の実績 と成果	取組内容	呼吸器系・消化器系、ポツリヌス症、炭疽病の発生予防を行うためにワクチン補助を行った。
	成果	疾病予防を図ることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事務処理について検討する必要がある。（獣医師の事務負担等）
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	子牛価格の低迷等で畜産経営は大変厳しい状況が続いていることから、家畜の疾病対策を強化することで、生産性の維持・向上を図ることを目的に、令和6年度から新たに子牛の損耗防止事業として実施した。初年度であったが、関係機関及び獣医師等と連携しながら、計画的に取り組むことができた。本事業により、疾病を予防するとともに、出生した子牛を確実に市場に出荷し、収入に繋がられるよう継続していきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	昨年度に引き続き、獣医師と連携を図りながら事業を進める。 事務処理について、獣医師とよりよい方法を検討する。
------------	---